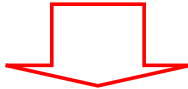


1. WG設置の経緯

局地的豪雨 H20年7月28日豪雨(都賀川水難事故含)、8月末豪雨など



社会資本整備審議会

気候変動に適応した治水対策検討小委員会

- 溪流における局地的豪雨に対する警戒避難対策WG(砂防計画課)
- 中小河川における局地的豪雨対策WG(治水課)
- 中小河川における水難事故防止策検討WG(河川環境課)

【WG委員構成】

委員長
小委員会と兼務

- 藤田正治 京都大学防災研究所教授
- 藤吉洋一郎 大妻女子大学教授
- ・石川芳治 東京農工大学大学院教授
- ・吉田秀光 鳥取県三朝町長
- ・鈴木和史 気象庁予報部業務課気象防災情報調整官
- ・井波久治 富山県土木部長
- ・小山内信智 国土技術政策総合研究所砂防研究室長
- ・田村圭司 (独)土木研究所火山・土石流チーム上席研究員



第2回WG

開催経緯等

- ・平成20年11月12日(水) 第1回WG
- ・平成20年12月19日(金) 第2回WG
- ・平成21年3月 提言の公表、小委員会へ報告予定

2. 検討内容

(1) 検討の必要性

河川とは異なる対策の検討が必要

河川		溪流	
地形	勾配が緩く、川幅が広い 堤防のり面勾配が緩い	地形	勾配が急で、川幅が狭い 兩岸の傾斜が急
出水	出水の立ち上がりが遅い 洪水流	出水	出水の立ち上がりが早い 土石流・フラッシュフラッド(土砂流・流水)
降雨	河川の中から確認出来る	降雨	溪流の中からは分りにくい
情報	無線や携帯の電波が届く	情報	無線や携帯の電波が届きにくい
周辺	周辺に人家が多い	周辺	周辺に人家が少ない



溪流内における局地的豪雨時の人的災害の特徴

- ・降雨中や直後に急な増水や土砂流出による被害が発生する恐れが高い
- ・危険な状況を認識しにくく、情報も届きにくい
- ・日常性を離れた環境(非日常性)で発生しやすい

(2) 論点

溪流での、釣り、水遊び等における**自らの安全確保**をどのように考えるのか？

人の利用を前提とした**砂防設備等および周辺溪流の安全確保**はどのように考えるのか？

を踏まえ、今後の溪流における局地的豪雨に対する**危険回避対策のあり方**はどうあるべきか？

2. 検討内容

(3) 検討する場の整理

砂防指定地でない溪流

砂防指定地(行為制限地)の溪流

一般的な砂防設備

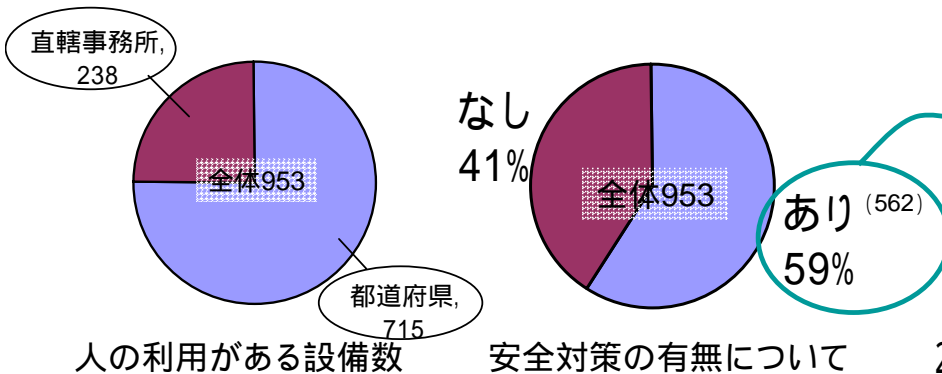
人の利用を意図しないが人の利用がある砂防設備

人の利用を前提とした砂防設備

市町村等が整備した施設を含む砂防設備



(4) 直轄、補助を対象に全国調査



安全対策の実施内容

注意看板の設置



331箇所 / 562

情報周知看板の設置

大雨による急な増水に備えるために!

河川の上流で雨が降ると、河川の水位が急激に上昇することがあるので山の天気にご注意ください。
周辺地域のリアルタイム雨量情報は、携帯電話で下記より入手できます。

山口県土木防災情報システム(提供: 山口県)
<http://y-yousai.pref.yamaguchi.lg.jp/>
周辺の雨量局: 〔徳島〕〔徳島〕〔阿武川ダム〕

警報機等の設置

12箇所 / 562

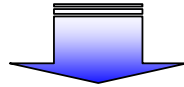


49箇所 / 562

3. 提言

対策の基本方針

近年、局地的豪雨が多発しており、今後も各地で**フラッシュフラッド(鉄砲水)**や**土石流**が発生する可能性があることを溪流内の利用者、行政等のあらゆる関係者が認識し、対策を進める必要がある。対策は、**人の利用を前提とした砂防設備**における対策を中心に、**自助、共助、公助**の視点から推進する。



具体的な対策

「全ての溪流を対象に溪流利用者の危険回避対策」

土砂災害防止教育等により危機回避能力の向上
フラッシュフラッド等の危険性の高い溪流の周知
気象情報提供の推進

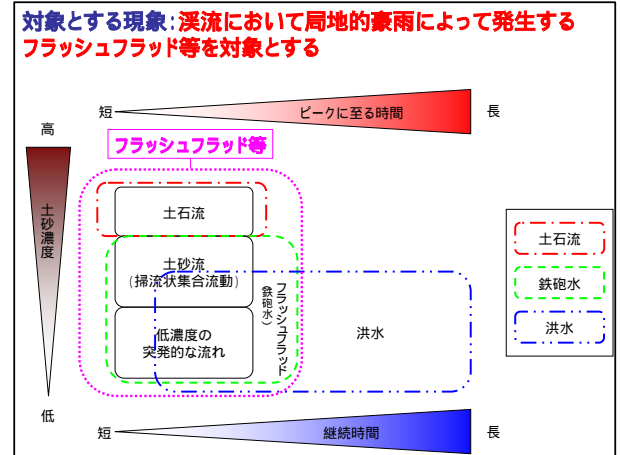
「人の利用を前提とした砂防設備における溪流利用者の危険回避対策」

利用者への安全教育の徹底
共助による避難の呼びかけ
安全確保のための情報提供の強化
安全利用点検および安全対策に資する施設等の整備

当面の検討事項

個々の設備を評価(953設備を対象)

流域概況、河道概況、安全管理等の状況等を調査し、外力特性、現状の利用安全度を定量的に評価(土木研究所、砂防計画課)



フラッシュフラッド等の位置付け



フラッシュフラッド(新潟県魚野川支川水無川)